

センターに向かって進め その6

さて、いよいよ話は佳境に入ってきた。センター併願私大の倍率は、このところうなぎのぼりである。誰もが志願する都内私立大学などは、明治の政経学部政治学科で、昨年センター85%がボーダーという数字も出ている。

全体の募集人員が150名なので、センター併願での募集定員がなんと25名で、3教科での募集が10名で、7教科での募集が15名なのである。センター併願でのボーダーは、7教科で765点85%として、約100名が合格ラインである。その平均点は、なんと796点である。

そのうち、手続きを取ったのが何名いたのかはわからないが、実質800点に近い人間が併願に合格しているという結果である。まさしく、東大並みである。それでも、東大の合格者の平均は850点に近い。とてつもない数字である。

ほんの10年前より、約50点は上がっている。私立併願は、100点は上がっている。これが、募集定員の1.2倍の合格者しか、私立大学の合格者が出せない実態なのである。

かといって、センター併願で入れるところがないわけではない。募集定員に比して、センター併願の募集を多く出しているところを探すことと、滑り止めとして使うなら、どの辺の大学を滑り止めにするのかという作戦をとることが大切である。

センター前期の出願は、遅くて18日までである。一日目の結果次第で、3科目方式や4科目方式のおおよその結果の予想は出る。

逆に7科目方式なら、次の日の逆転が可能となる。

出願に関しては、大学ごとに学部内併願の制度や、複数制度併願の制度、同日程内の複数出願等大学によっていろいろあるので、調べてみなければならない。

特に第一志望大学については、募集要項を細かく見て、色々出せるなら同じおカネでも複数回のチャンスに恵まれることがあるので、本当によく調べていただきたい。

このことは、9月と10月の保護者研修会でも話してきているので、3年生にとっては解っていることだとも思うが、1・2年生の保護者の皆様もこのような情報を共有していただきたいと思います。本学受験や地方受験などを含めて、受験し合格してからの入学手続きを待つ特例とかもあり、これはこれでとても必要な情報なのである。

そろそろ、センター試験受験の内容についてはこのあたりにしておこうと思う。いたずらに不安を持ちながら受験することはマイナスとなる。今までやってきたことを信じて、目標プラス50点を目指してください。

